

第4回 本格駆除エリア経過観察地点の継続調査

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時：2021年7月19日（月）10:00～12:00

集合：9:45 親水広場 第2駐車場

場所：手賀沼大堀川河口部

船の運航：みずすまし号 古川、片瀬（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

参加：千葉県立中央博物館 林紀男さん 美手連4名

（1）継続観察地点状況 ※ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）

A⇔A'



A地点に第二機場前の駆除作業から漂着したと思われる切片多数漂着



ナガエ・オオバナが厚みを帯びて混生している。

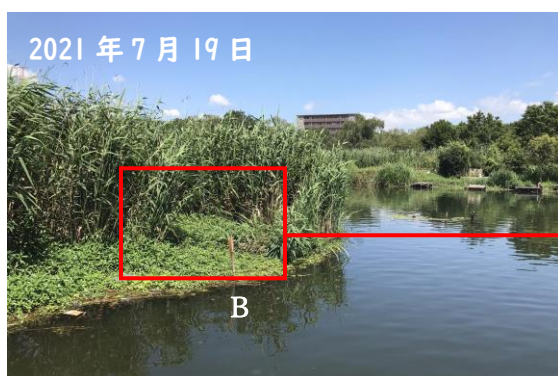


A～B地点半年前に駆除したエリア
ほぼ全域ヨシ帯の中まで再繁茂している。



B地点～大堀川河口部

B⇔B'



繁茂域が広がっている。取り残しから生えてきたものか、漂着によるものか、引き抜いて根の状態を観察してみる。

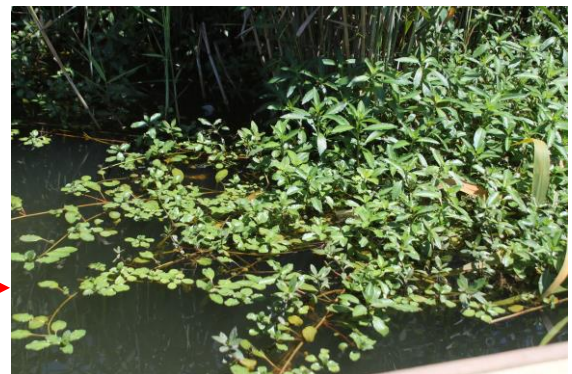
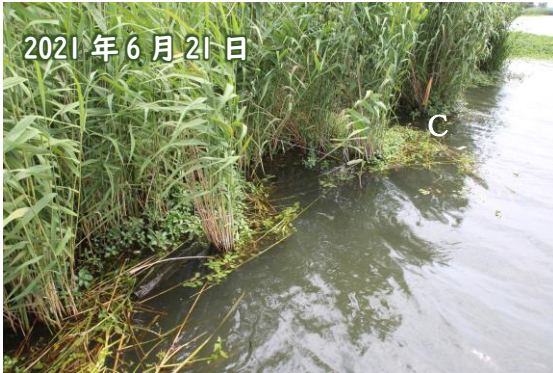


簡単にレイキでオオバナを引き上げることができた。細い根が伸びている。赤いひげ根も生えている。漂着した切片から再生し繁茂したものである。



地図上の黄色い★地点に浮葉を伸ばしたオオバナを引き上げると太い黒色の根の塊から新しい根が出ていた。明らかに取り残しから再繁茂していた。

C



ナガエ・オオバナがドンドン浮葉を伸ばしている。



漂流している切片の根元から発芽していたのが確認できた。

(2) 調査結果

- ・ 前回から約1カ月経過し、確実に面積、容積ともに増えていた。
- ・ 岸際に繁茂しているナガエやオオバナは容易に引き抜くことができ、根の状態からほとんどが漂着した切片などから再生したもののようなのだ。
- ・ 岸から離れた場所で浮葉を伸ばしているナガエ・オオバナは、取り残した黒い塊の太い根から新しい根が生え茎を伸ばしていることが確認できた。根付いているため簡単には漂流しないように思われる。しかし、生長するにつれ強風や大波などの影響を受け、ちぎれてしまう可能性も考えられる。

(3) 考察

- ・ 着実に拡大の一途をたどっている。対岸（第二機場前）で駆除作業をしていたため、新たな切片が漂着しているものもあり、早急に定期的な巡回監視・駆除の体制の構築が望まれる。